

「まなび」「かかわり」を実現するための ICT・ソーシャルメディアの活用

京都外国語大学
マルチメディア教育研究センター
准教授 村上正行
masayuki@murakami-lab.org
twitter ID: @munyon74

専門分野

- 専門 教育工学
 - ICTを活用した高等教育実践をフィールドに授業実践の設計・評価の研究を行う
 - FDIに関する実践・研究も行う
 - 主として質問紙調査による定量的な評価を行うが、インタビュー調査による質的研究も補完的に行っている
 - 工学系、教育系の中間的な立ち位置で研究を進めたい

この10年間におけるICTの変化

- ゼロ年代に、ICTも大幅に変化
- インターネットも急速に普及
 - Web・BBS
 - 映像・音声の通信
 - ブログ・SNS (mixi・GREE etc.)
 - YouTube・ニコニコ動画
 - twitter・Facebook

本報告の内容

- ICTやソーシャルメディアを教育実践に活用する上でのポイントについて検討
- 大学教育を中心としたソーシャルメディアを活用した教育実践の事例を紹介
 - 授業中にtwitterを活用した授業実践



今後の英語教育において参考になることを目指す

ICTやソーシャルメディアを 活用した授業のデザイン

- ICTやソーシャルメディアを活用した授業を設計するには
 - その特徴を十分に踏まえた上で授業をデザインすることが重要
 - なぜそのメディアを利用するのか
 - 教育目標は何なのか

そのメディアを使う文脈を
学生に感じさせることが重要

ICTやソーシャルメディアの特徴

- **可視化**
 - 学生の学習プロセスを残していくことが可能
 - 学生同士のコミュニケーションの支援
 - 特に授業時間外の議論が有用
- **拡大化**
 - 人間関係を広くすることが可能
 - 例えば、海外の学習者との交流
 - 今の学生は、ソーシャルメディアを「友達＋有名人」という閉じられたコミュニティに活用することが多い

新しいメディアを教育実践に 活用する際に注意すべき点

- 教員がそのメディアに慣れておく
- 学生がどんなメディアを利用しているかを把握
 - 授業が盛り上がらなかつたり、トラブルに対処できない危険性が
 - 学生のメディア利用は変化が早く、年代によってはっきり分かれることがある



その上で、学生に授業で活用するメディアについての知識をしっかりと説明することが必要

インフォーマルな情報の有用性

- SNSやソーシャルメディアを活用する場合、インフォーマルな情報をどういう形で共有していくか、ということが重要
 - SNSに学生がログインするには新しい情報が必要
 - 教員や(サクラの?)学生が日記を書く、などが有効
- これまで行われてきた掲示板やMLなどにおける交流を活性化する上でも、この点は重要



これまでに得られた知見もかなり参考になる

デジタルネイティブ

- 生まれながらにITに親しんでいる世代
 - 1990年生まれ以降くらい?
 - 対して、IT普及以前に生まれてITを身につけようとしている世代をデジタルイミグレイト
 - アラン・ケイ(パソコンの父と呼ばれる)
- 「テクノロジーは発明される前に生まれた人にとってのみテクノロジーとして意識される」

ネイティブにとって、テクノロジーは無意識のうちに自然に使うもの

- デジタルネイティブじゃない1989年生まれのわたしの話
<http://d.hatena.ne.jp/haruna26/20110216/1297867931>

- 95 幼稚園年長 ウィンドウズ95が発売
- 96 小学校1年 ヤフー株式会社設立
- 97 小学校2年 まぐまぐメルマガブーム
- 98 小学校3年 ウィンドウズ98が発売
- 99 小学校4年 携帯i-Modeが登場
- 00 小学校5年 日記才人(日記猿人から変更)へ
- 01 小学校6年 Yahoo! BB開始
- 02 中学校1年 Winnyが誕生 P2P全盛に
- 03 中学校2年 GoogleがBlogger.com買収

- 04 中学3年 mixiがスタート
- 05 高校1年 YouTubeがスタート
- 06 高校2年 ニコニコ動画がスタート
- 07 高校3年 ウィンドウズ Vistaが発売
- 08 大学1年 Facebook日本版公開
- 09 大学2年 iPhone3GS 発売
- 10 大学3年 twitter流行
- 11 大学4年 Google+がスタート

- Webサービスが流行るのは、日常的に使うようになるから
 - mixi
 - twitter
 - Facebook

電子メールとかケータイもそうですよね

ICTの活用を
「日常に織り込む」ことが必要

2000年の文部省審議会 答申

- 2000年11月の文部科学省中央教育審議会大学分科会(当時、文部省大学審議会)の答申

情報通信技術の発展に関連しては、人間関係の希薄化や情報モラルの問題なども指摘されているが、こうした負の側面への対応に留意しつつも、迅速かつ高度な情報通信技術を大学教育において積極的に活用して、大学教育の内容や方法を高度化する(中略)ことは、大学における教育研究活動を革新していく上で重要なことと考える

授業中にtwitterを活用した実践

twitterとは

- twitterは140文字以内でツイート(つぶやき)することで情報を発信するメディア
 - 日本でのユーザー数: 2011年4月で1549万人
 - メディアとしての影響力を増しつつある
- ツイートを見たい人をフォローする
 - タイムラインにフォローしているすべての人のつぶやきが見れる
- 返信も可能(ただ、他の人にも見られる)
- RT(ReTweet)することで、他人のつぶやきを転送することができる

本報告の目的

- 本報告では、下記の2点を目的とする
 - twitterの特徴を踏まえた上で、大学授業においてtwitterを活用する授業デザインについて検討
 - 実践に対する学生の質問紙の結果を分析

大学教育におけるICTの活用

- これまでにも大学教育においてICTを活用した実践は多く行われている
 - クリッカーを用いて学生の反応や質問に対する回答などを収集し、その結果を授業に反映(青野 2009)
 - 教員の発問などに対して受講者が携帯電話から自分の意見や質問を送信し、その結果をプロジェクトに映し、講義を進行(宮田 2004)
 - 授業でSNSを活用して、意見や集団学習の進捗状況を共有(村上ら2008)

大学教育にtwitterを活用する意義

- 大学教育にtwitterを活用する意義は2点あると考える
 - 学生の授業コミュニティを形成する
 - 授業への参加意識を高め、理解を深める

学生の授業コミュニティの形成

- クリッカーや携帯電話
 - 個人の意見や感想をリアルタイムに送ることが可能
 - 他の学生の意見などを手元の端末で把握できない
- Twitter
 - ハッシュタグを用いることで、授業に関するツイートを一覧することが可能
 - リプライやRTなどを通じて学生同士の交流も可能

↓

一緒にの授業を受けているという気持ちが生じ、授業内のコミュニティが形成されることを期待

学生の授業コミュニティの形成

- 学生が希望すれば、教員や他の学生をフォローすることで、授業外の学生のツイートを見ることが可能



- 学生同士の関係性が高まってコミュニケーションが活発になる
- 日常生活で感じた気づきを授業と関連づける

- この特徴は、SNSと近い
- SNSはリアルタイム性がない

参加意識を高め、理解を深める

- バックチャネルの利用
 - ネットを活用して、授業中に協同してノートをとることによる影響(大城 2009)
- twitterを活用する際には、
 - 授業に関する情報を共有した上で
 - 自分の意見や感想を書く



- 授業へのコミットが高まる
- 動機づけや理解が深まる

twitterを活用した授業

- twitterを活用して学生の意見、感想を書く授業実践を実施
- 対象とした授業
 - 京都外国語大学「情報社会論」
 - 2010年度春学期
 - 受講生:44名
 - SNSやYouTube、Googleなどデジタル社会におけるさまざまなサービスについて紹介
 - それらの特徴、社会への影響などについて解説

twitterを活用した授業デザイン

- 授業中のtwitter上の書き込み・議論を盛り上げるために、下記の点に注意して実践した
 - 授業の最初にtwitterの説明を行う
 - 授業の内容をまとめる学生を準備する
 - 多く発言する学生を準備する
 - プライバシーについて配慮する
 - 授業の内容をまとめて提示する

授業の最初にtwitterの説明を行う

- Twitterの利用経験がある学生は、ほぼいない



- 2回目の授業でtwitterについての授業を実施
 - 特徴、利点、欠点を説明し、実際に体験してみることで、授業中での活用への導入とした

- 1回の授業だけでは不十分だったので、その後の授業でも、適宜説明を加えた

授業の内容をまとめる学生を準備する

- 授業を聞きつつ、意見などを書くには慣れが必要



twitterに慣れており、授業内容にする知識にも詳しい学生に授業の内容をまとめてもらう

- 他の学生はあとでそのツイートを見れば授業の内容を確認することができる
- 授業中に自分の意見や感想を書く際にその発言をリツイートすることなどで、意見しやすくなる

多く発言する学生を準備する

- 授業中に発言が少ないと、学生がみんな様子を見て発言しない悪循環に陥ってしまう可能性
- 授業に関する内容だけになると、敷居が高くなり発言できない学生が出てくる可能性



- ネット文化に慣れている学生に、気軽なものから授業に関するものまで幅広く発言してもらう
- リプライやRTなど、twitterの機能も積極的に活用

プライバシーについて配慮する

- プライベートで利用しているアカウントの利用に抵抗がある
- この授業で、twitterを始めた場合でも他の時には使いたくない



授業で使うアカウントは、授業専用のアカウントを取得して利用してもいいように指導

授業の内容をまとめて提示する

- たまったツイートをどう活用するか



授業でツイートされた内容は、Togetter (<http://togetter.com/>)を活用し、まとめる

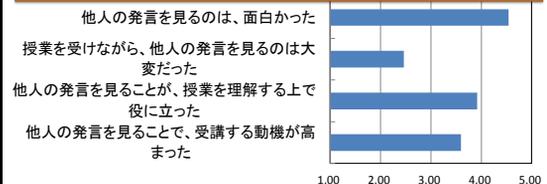
– <http://togetter.com/id/munyon74>

- 次の授業の最初に、簡単に前回の内容を振り返ることができるように活用した（大福帳、何でも帳に近い形で活用）

学生に対する質問紙調査

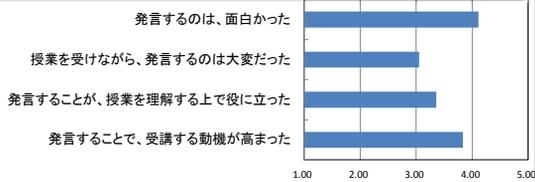
- 13回目の授業時に実施
- 回答者数37名
- 質問項目(5件法)
 - 受講について:2項目
 - twitterでの発言を見ることについて:4項目
 - twitterでの発言を書くことについて:9項目
 - 授業全体について:9項目
 - 自由記述7項目

授業の内容をまとめる学生、多く発言する学生を準備したことが有効に



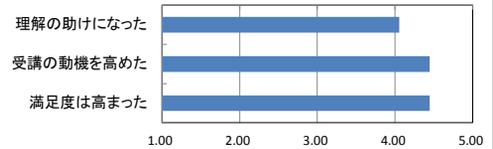
「様々な意見の中で、同じようなアクションや違う感覚を持っている人が目に見えてわかったので面白かった」
 「授業内容をまとめてくれている人がいて、参考になった」

Twitter上に意見を書くことや、学生とのやりとりにより、授業へのコミットが高まる



「授業中に発言するのは苦手な方だが、twitter上だと気軽な感じで自由に発言できてよかった」
「反応があって、書こうという気になった」

授業でのtwitter活用について



- 理解の支援、動機、満足度も高い評価

授業中にtwitterを活用した実践

- 下記の2点について説明
 - 大学授業においてtwitterを活用する授業デザインについて
 - 実践に対する学生の質問紙の結果を分析
 - 他人の意見を見ることが理解を支援する
 - 自分の意見を書く事で授業へのコミットを高める

今後の課題

- 質問紙調査を詳細に分析
- 授業期間中における学生や発言の関係（フォロー、リプライ、RTなど）を分析
- 授業中にtwitterを活用することで理解を深めることにつながるかどうか？



学習効果をどう考えるか？どう測るか？

語学教育に関する実践と今後の展望

- 語学教育においては、学生には学習目標を達成するためにメディアを使う文脈がある
 - 日本語教員養成を目指したSNSの活用 (中俣ら2010)
 - 語学交換を支援するSNS lang-8 <http://lang-8.com/>
- Facebookを用いた海外交流なども考えられる

語学教育におけるICT・ソーシャルメディアの活用に向けて 学生に積極的に参加してもらうためには



• 授業をしっかりとデザインする
• 教員がともにメディアを活用していくという姿勢を教員がもつことが重要



学生同士、教員と学生、授業と外部との「かかわり」が生まれてくる